

## 2024. 5. 19 後期課程 9 年生と遊ぶ

5 月に入り、後期課程 9 年生の生徒が家庭科の授業の中で、幼児理解という目的で幼稚園に遊びに来てくれています。

昨年度は 11 月から 12 月にかけて、遊びに来てくれましたが、今年度は 5 月から始動です。

生徒らは好きな遊びに参加しました。幼児らとどう関わっていいのか戸惑う生徒の姿も見られます。

でも、幼稚園の子たちと一緒に目線をあわせながら、遊びを楽しんでほしいとお願いをすると、鬼ごっこ、お家ごっこ、縄跳び、泥遊びと生徒らは意欲的に参加し始めます。

砂場で裸足になって、園児と一緒に川づくりをしている生徒が砂を掘りながら、「お兄ちゃんはつき組だったんだ！」と話しています。附属幼稚園出身の生徒です。

「えっ！私といっしょ！」と園児は嬉しそう。

「どんなことして遊んでたの？」

「こうやって川作ったりもしたし、部屋でいろんなもの作ったりもしたよ」

「そうなんだー！」

遊びを介して、会話している園児と生徒の姿がなんともほほえましくも思えました。

その横で、男の子は「川こっちを掘って！ぼくはここ掘るからつなげよ！」と会話しています。

川を作りながら、気付いたら同じ遊びをつくり出す同士となっています。

9 年生の子におんぶしてもらいながら、めいっぱい甘えている園児もいます。

縄跳びをどちらが長く跳べるか競争している姿も見られます。

鬼ごっこでは、お互いに汗をかきながら、走り回って楽しんでいます。

幼稚園の子たちは普段の遊びを楽しんでいるところに、9 年生の子たちが一緒に目線を合わせながら、共に遊び、その中で園児たちの発達を感じ取っているようです。ある意味小さい子ってかわいいなと感じたり、こんなにできるのかと驚きもあったり。

また自分たちも小さい時、こんな遊びをしていたなと自身の成長を振り返ることもあったことでしょう。

今回の関わりを参考にしながら、遊びを考えてくるとのことでした。

これからの関わりも楽しみです！

